

2011 年度春学期（アクツ科目は通年 [2010.8~2011.7] を含む）

学生による授業評価アンケート結果の評価

神学部

全体としての特徴と課題を 3 点挙げたい。

1. 全科目の平均において、全ての項目において 4 以上の高い評価と学生の学習意識が出ている。中でも、教員の熱意に関する評価平均が最も高い点は評価に値する。
2. 授業時間外の学習時間に著しい相違がみられる点。ACTS-ES では各授業について、週平均 2～3 時間以上であるのに対して、他の課程でかなり多くの授業で 1 時間に満たない（平均は、1.16 時間以上）。特に、同一科目である「基礎演習」においてバラツキがあるのは要改善。
3. 昨年度から採用しているネット上での評価のため、学生の意見が率直であり、授業改善に結びつけやすくなった。ただし、少人数クラスでの評価には課題が残る。

神学科

昨年と同様、神学科の授業に対する満足度は高い。すべての授業に当てはまる訳ではないが、今後、改善点があるとすれば、それは、技術的な面における課題である。① 授業の目的に沿ったかたちで、授業形態、範囲と制約（何をとり扱わないかを含む）、神学諸科目の中での位置を明瞭にすること。学生の中には、過大な期待を抱きつつ授業に臨むといった面も散見される。② 教材や IT ツールの効果的な使用について。教材については英書をあまり読まない学生への配慮が必要であろう。また IT ツールに関しては設備をより整えた上で、効果的な使い方が探られるべきであろうかと思われる。

国際キリスト教学専攻

授業に対する評価はまずまずであった。問題点の指摘や改善意見は少なく、全体としてはっきりとした問題があるわけではないと思われる。各教員がアンケートを踏まえて個別の課題点と思われるものの克服に努めると共に、教授内容のアップデート、教育の理念や方法及び青年たちの現状理解に関するいっそうの研鑽などを重ねていくことで、学生にとっても充実した勉学を実感できるようにすることを期待する。

キリスト教福祉学専攻

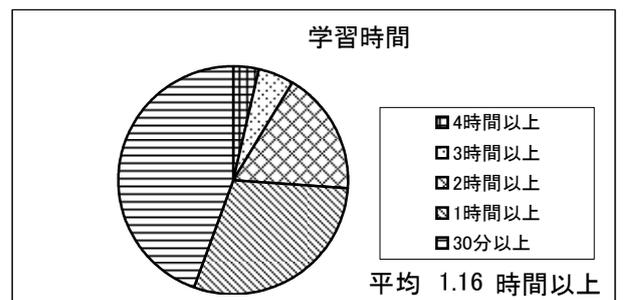
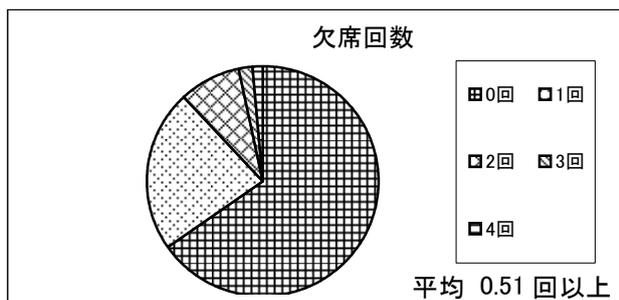
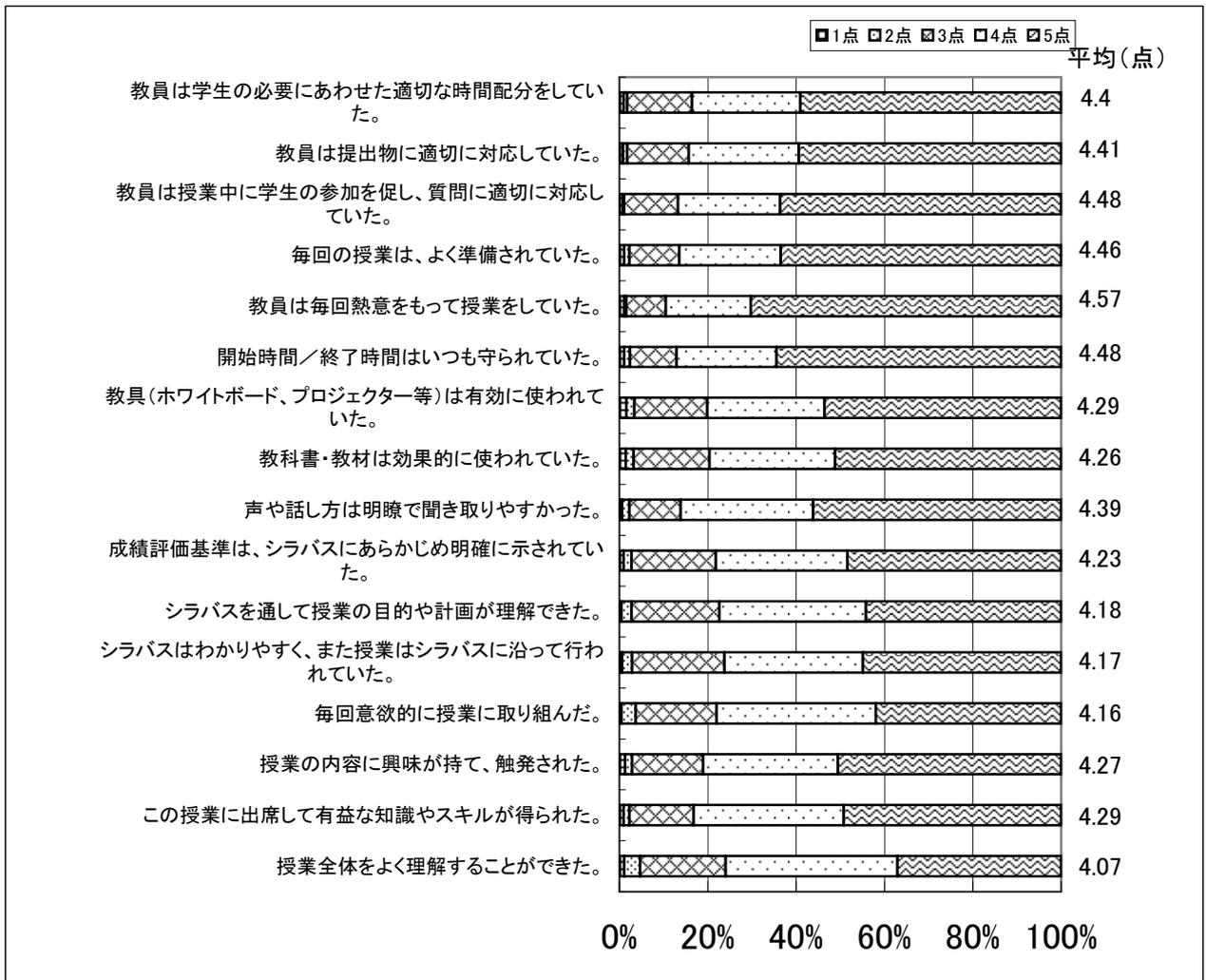
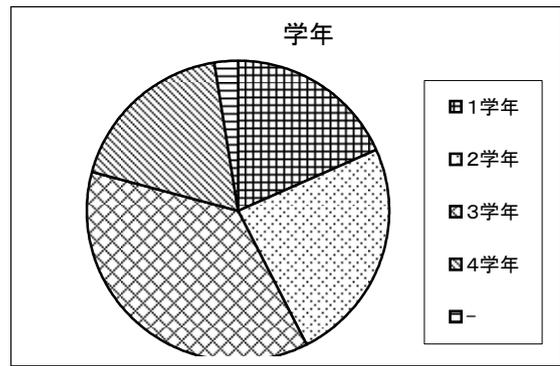
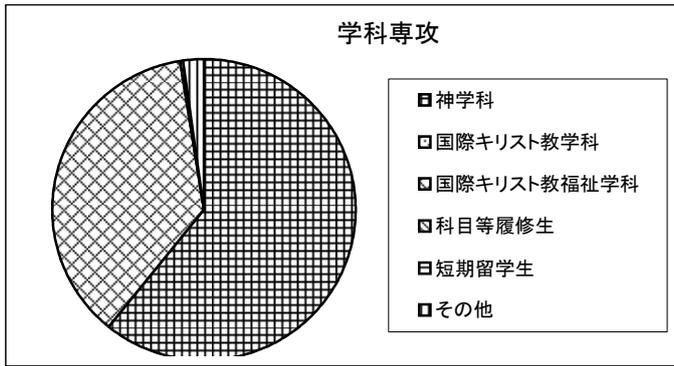
前回に比べ、各教員への評価は上がっていた。教員の努力がよく見て取れた。ただ、学生の中にバラつきがあるので、ついていくのが大変な学生の方に授業を合わせると全体としてレベルは下がってしまい、将来に指導者になれるような学生は育たなくなる、という悩みを生み出す。平均的なレベルに合わせつつ、能力のある学生をいかに指導していくかは、一巡したカリキュラムの中で、今後、課題となっている。

2011 年 10 月 4 日

FD 委員会

2011授業評価アンケート結果

学期 春学期
科目名 日本語提供科目総合



2011授業評価アンケート結果

学期 春学期
科目名 ACTS-ES提供科目総合

